

## 年間第29主日C

ルカ18・1-8

今日は、私の祈りの経験から話を始めたいと思います。

1996年、私は高校の卒業試験の準備をしていました。私の国、ミャンマーでは、その試験に合格することは非常に難しいことです。私はその試験に合格するために一生懸命勉強しました。また、絶えず祈りました。ついに、私の祈りは聞き入れられ、合格することができました。それは私が努力した結果です。しかし、祈りの力であると強く思いました。このときは、祈りが聞き入れられました。しかし、祈りが答えられなかった時、祈ることは意味がないのでしょうか。祈りが聞かれた時も聞かれなかった時も同じようにキリスト者として、祈りは私たちの力であり、希望であることを日々実感しています。

今日の福音書で、イエス様は祈りについての例えばなしを語られています。このたとえばは私たちに祈りがすぐに聞かれない時も忍耐をもって祈るように教えています。また、いつも絶えず祈り続けることを教えています。

祈りは私たちの信仰にとって力であり、希望ですが、祈ることに関してわたしたちは二つの問題を抱えています。一つの祈りの問題は祈りがすぐに答えられない時祈ることをやめてしまうことです。もう一つは祈りが既に答えられた時にも祈ることをしなくなってしまうことです。

今日、私たちは自分自身に問いかけてみましょう。なぜ、祈るのでしょうか。

ところでなぜ、神は私たちに祈ることを望まれるのでしょうか？

厳密に言えば、神様は私たちの祈りを必要とされていませんね。神様は、私たちが求める前から私たちが必要とするものを知っておられるのです。

(マタイ6.9)

それでは、イエス様にとって祈ることはどういう意味であったのでしょうか。イエスの生涯を見てみましょう。イエス様ご自身はいつも祈っておられます。ヨルダン川で洗礼を受けたとき祈っておられました。そのとき天が開かれ(ルカ3.21)、天から「あなたは私の愛する子、私の心に敵う者」という声が聞こえました。「イエスが一人で祈っておられた時」(ルカ9.18)、「イエスが……祈るために山に上られた」(ルカ9・28)、「イエスはあるところで祈っておられた」(ルカ11.1)。福音書にはイエスが祈っておられた姿が繰り返し描かれています。



たとえどんな忙しくても、イエスは神と一体となる祈りの時間を大切な時としておられるのです。

今日の福音書では、イエスは弟子たちに「気を落とさずに、絶えず祈らなければならない」と教えています。祈りに答えがない時に、祈ることをやめてしまう私たちに「疲れることなく、いつも祈っていなさい」と教えてくださっています。私たちが神に祈るのは、このイエス様の語りかけに答え、神がわたしたちに寄り添ってくださり、神がともにいてくださることを感じるためです。

祈りとは、神と対話する最も単純な形です。つまり、私たちは神に話しかけ、祈りにおいて、神は私たちにその存在を感じさせてくださるのです。祈りは私たちの霊的な力と強さの源なのです。

しかし、私たちは生活の中で祈りの重要性を軽視してないでしょうか。今日は、信仰にとって大切な祈りの方法について考えましょう。祈りには多くの方法があります。今日は、そのうちのいくつかを紹介したいと思います。

まず、私たちは神様に話しかけることから始めましょう。私たちと共にいてくださる神にイエス様と同じように「アッバ、父よ」（マルコ14・36）と話しかけるのです。つまり、祈りは祈りたいと思ったときだけ祈ると言うものではありません。いつも神に「アッバ、父よ」（ガラテヤ4・6）と呼びかけるのです。祈りは、共にいてくださる神を近くに知ることなのです。

第二に、祈る時間と場所を決めましょう。私の場合は、朝起きた後、自分の部屋で祈ります。それが一番心地よいです。皆さん一人一人1日の初めに何かする前に、最も適した時間と場所を確保すればいいと思います。

祈りについて、大切なことは、イエス様がまず私たちのために祈ってくださっていることです。（ヨハネ17）。このイエス様の祈りがなければ私たち自身では祈ることもできないことです。

毎日の生活の中で、祈りを大切にしましょう。神に話しかけましょう。共にいてくださる神は、祈りの中で、私たちが世のために、それぞれのしかたで、様々な良い働きができるようにと励ましてくださいます。

今日、わたしたちはキリスト者として毎日の生活の中で神からいただいた信仰を証することができますように祈りましょう。困難な時も喜んでいても疲れはてることなく、いつも絶えず祈ることができますように祈りましょう。

*Lazum naw san Vincent (pime)*